

研 究 速 報

表 4 直進車両と横断歩行者の事故

事故時の状況	数
ほかのことに気をとられて歩行者を見落した	39
歩行者のとび出し	34
他車のかげになって相手が見えなかった	32
歩行者の信号無視 (信号交差点のみ)	17
歩行者がよけてくれると思った	9
地形上見通しが悪かった	9
ライトなどの眩惑によって歩行者を見落した	8

注) 1 件の事故に 2 以上のことがある。

と横断歩行者の事故の状況を分類したものである。表 4 によると、信号交差点で生じた事故 29 件のうち、歩行者の信号無視による事故が 17 件で 29 件の約 60% を占める。また、運転者による歩行者の見落とし、歩行者の飛び出し、走行車などによる視界のしゃ断なども多い。

7. 交差点歩行者事故の発生場所

歩行者事故 (全類型) は単路で 153 件、交差点で 172 件発生し、ほぼ同数である。

表 5 は、交差点およびその付近で生じた横断歩行者事故について、その発生場所を交差点の形状ごとに、交差点の手前、中、先の 3 つに分類し、さらに車と歩行者との出合方向別に示したものである。表 5 によると、交差点の先においてもっとも事故が多く、中、手前の順に、手前になるにつれて事故が減少する傾向がある。また、特に交差点先では、右からの横断歩行者の方が左からの横

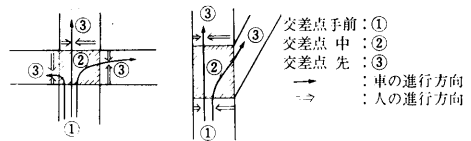
表 5 交差点横断歩行者事故の発生地点と横断方向の関係

交差点の形状 事故発生地点	横断方向	4 枝交差点	3 枝交差点	多枝交差点	合 計
交差点 手前①	左	9	2	1	12
	右	9	3	1	13
交差点 中②	左	15	6	0	21
	右	11	2	4	17
交差点 先③	左	19	4	1	24
	右	29	5	2	36
交差点と交差点の間	左	4	0	0	4
	右	4	0	1	5
合 計		100	22	10	132

注 1) 数字は件数を表わす

注 2) 歩行者の横断方向は車両の進行方向に対して左、右とした

注 3) 交差点例



断歩行者よりも危険であることが知られる。なお、歩行者の横断方向については、車両の進行方向に対して左、右とした。

そ の 他

センターオーバーによる事故、ならびに追突事故についても分析を試みたが、よい結果が得られなかった。

(1969 年 1 月 11 日受理)

正 誤 表 (2 月号)

ページ	段	行	種 別	正	誤						
6	左	27	本 文	$ax/(z^2+a^2) \ll 1, a^2x^2/A \ll (z^2+a^2)^{3/2}$	$ax/z^2 \ll 1, a^2x^2/A \ll z^3$						
"	"	31	"	一例を $a=16 \text{ mm}, A=0.217 \text{ mm}$ の場合につき図 12 に示す。	一例を図 12 に示す						
7	左	15	本 文	であるとして,	であるとし,						
"	"		表 2	<table border="1"> <tr> <td>n</td> <td>D_n</td> <td>$D_n/n!$</td> </tr> </table>	n	D_n	$D_n/n!$	<table border="1"> <tr> <td>n</td> <td>D_n</td> <td></td> </tr> </table>	n	D_n	
n	D_n	$D_n/n!$									
n	D_n										
8	左	6	(31)式	$p = acw_0 e^{i\omega t} \dots \dots$	$p = acw_0 e^{i\omega t} \dots \dots$						
9	右	1	本 文	Fraunhofer	Fraunhofer						
10	左	下 28	本 文	(p.33 よりつづく)	(p.32 よりつづく)						
表紙 3	左	12	筆者紹介	Tokishige KINOSHITA	Tokishige KINOSHITA						